

年賀状交流事業の紹介

心温まる手書きの年賀状

児童がひとり暮らしの高齢者や福祉施設の入所者に、心のこもった手書きの年賀状を送りました。年賀状で交流が深まるように、市内の小学校(全13校)と民生児童委員、福祉施設の協力を得て、毎年行っています。年賀状を受け取る方からは「毎年楽しみにしている」と年賀状を心待ちにする言葉や「年賀状ありがとう」と受け取った感謝の言葉が寄せられます。



この事業は地域交流事業の一環として、皆様からご協力いただいた共同募金(歳末たすけあい募金)の配分金で実施しています。

福祉委員の活動紹介

多治見市社会福祉協議会は、自治会の協力を得て、町内会単位に福祉委員を設置しています。福祉委員は、民生児童委員や地域のボランティアと協力し、見守り活動や交流会など、地域住民の支え合いを推進しています。

1区福祉委員会(養正地域)

10月24日(日)、山吹東町集会所で「地震と火災」について講座を開催し、地域の住民が参加しました。講師の南消防署員は、被害を少なくするために①避難所の確認②火災警報器の取り付け③非常持ち出し袋を準備することと説明し「自分ができることから始めてほしい」と述べました。

参加者は、日頃の近所付き合いが、いざという時の助け合いにつながると、地域で防災意識を高めました。



消火訓練の様子

31区福祉委員会(根本地域)

10月23日(土)、特別養護老人ホーム「清涼苑」(旭ヶ丘)で、福祉委員が施設見学と高齢者疑似体験を行いました。施設長の案内で居室や浴室など、施設内を見学した後、二人一組で疑似体験装具(ヘッドホンや特殊眼鏡、手足の重りなど)を装着して、高齢者疑似体験をしました。参加者は「体が固定されると転びやすい」「介助するのも難しい」と、高齢者の気持ちや介助方法を学びました。



疑似体験装具を装着する福祉委員

障害者福祉センター
俳句コーナー

縁側で 新聞ひろげ 冬日和
飯田 信子

足早に 日々過ぎ行きて 十二月
亀井 義春